



庭木に利用する樹種の特徴と管理

～ ツバキ類 ～

日本樹木医学会富山県支部
樹木医 西村正史

花の少ない冬に花を咲かせる花木にツバキ類がありますが、庭木として利用されているツバキ類のほとんどは園芸品種です。これらは、ヤブツバキやユキツバキなどから育成されたものです。

今回は、ヤブツバキとユキツバキの特性とツバキ類の管理について紹介します。

1 特性

ヤブツバキは東北以西の暖地に生育し、高木となります。本県では標高100m以下の海岸地域のスダジイ林やタブ林内に生育し、氷見地域で多く見られます。花は2月から4月にかけて咲きます。写真1は県指定の天然記念物に指定されていたヤブツバキ、「長坂不動の大つばき」です。残念ながら平成26年（2014年）に枯損しました。

ユキツバキは北陸から東北地方の日本海側にそれぞれ分布しています。本県では標高300m以上のブナ林内に生育しています。高さは低く1～3m程度で根元から多く枝分かれした株立状になり（写真2）、しかも積雪のため枝は這うことが多く、地表に接した枝は発根し独立の個体となります。花は、3月上旬から4月中旬にかけてです。

両者にはいくつかの点で違いがあります（写真3）。ヤブツバキの花弁は半開ですが、ユキツバキの花弁は全開です。ヤブツバキの葉脈は不鮮明ですが、ユキツバキの葉脈ははっきりみえます。

なお、本県の標高100～300mにかけての地域には両種の雑種と考えられているユキバタツバキが生育しています。

2 管理

日陰に非常に強い花木なので、日当たりを気にする必要はありません。半日陰ほどの明るさが適しています。日当たりが良すぎると乾燥して枯れてしまうので、注意してください。

植える場所は普通の庭なら十分育ちますが、水はけがよく弱酸性の土であれば、生育はさらに良好です。植えてから元気になるまでの2年間程度は、土の表面が乾いたらたっぷり水を与えます。

ツバキ類にはチャドクガ、カイガラムシ、すす病などの病虫害が発生します。これらの対策は本誌（194号2015.1-5 p）に載っていますので、参考にしてください。



写真2 富山市の天然記念物に指定されている富山市山田今山田のユキツバキ。右上：株立状態の多数の株（2018.12.2）



写真1 氷見市長坂馬場出の「長坂不動の大つばき」
（2010.11.6）



写真3 ヤブツバキ（左）とユキツバキ（右）の花と葉の違い
（左上：2012.4.12、その他：2010.3.28）